

【1.体制】

常勤医師1名。

前年度は熊本大学応援医師が金曜に外来を行っていたが、2022年度は中止となった。

【2.取組内容と実績】

整形外科で提唱している「ロコモティブシンドローム（略してロコモ）」の原因には、生活習慣病や運動不足、加齢による筋肉の衰え（サルコペニア）やフレイルが基盤にあり、腰痛・膝痛・転倒・骨折が組み合わさり生活機能を悪化させる。

特に重要な疾患は変形性膝関節症（膝OA）、骨粗鬆症とそれに関連する脊椎・大腿骨近位部骨折（HF）である。HF受傷後1年後の死亡率は12.5%と報告されている。筋力低下や活動性の低下があれば、心疾患や肺炎で死亡するリスクも3倍高くなる。予防のためには普段から散歩や体操などの運動習慣と食事（栄養）が必要である。

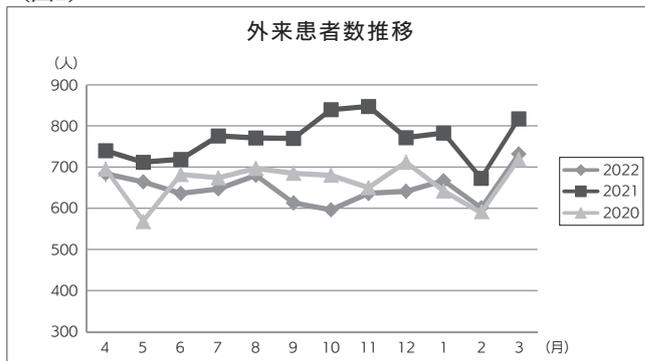
骨密度や体組成の計測、MRIによる画像診断を組み合わせ、膝痛・腰痛・慢性痛・神経障害性疼痛などの痛みの治療やリハビリ、骨粗鬆症の薬物治療に取り組んでいる。当科の成績は、所属学会の整形外科関連学会、日本骨粗鬆症学会、サルコペニア・フレイル学会などで毎年発表・報告を行っている。

当科では週3回の外来を行っており、外来の延患者数は7,797名（図1）、入院延患者数は6,157名であった（図2）。入院患者の主な疾患は大腿骨近位部骨折・胸腰椎圧迫骨折が例年同様多数を占めており、前年度とほぼ変わらない状況であった。

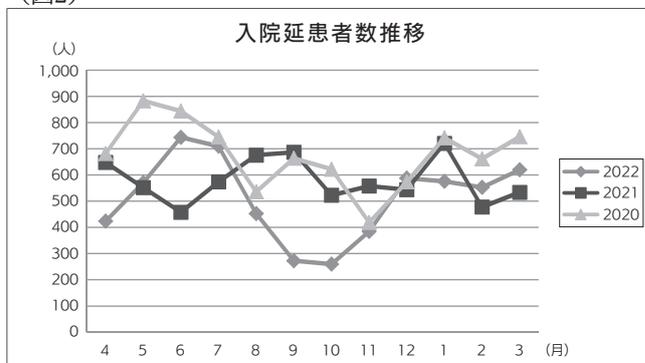
【3.今後の課題】

次年度も三角・大矢野地域で唯一の整形外科として、健康長寿を目標に地域医療に貢献できるよう引き続き取り組んでいく。

（図1）



（図2）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
観血的骨接合術	1	5	1	3	1	1		2	3	4	4	1	26
四肢切断術													0
人工膝関節置換術(TKA)			2							1		2	5
抜釘術	1		1	1						1		1	5
人工骨頭置換術								1		1		1	3
腱鞘切開術											1	1	2
手根開放術								1					1
異物摘出術							1						1
腱縫合術													0
軟部腫瘍摘出術	1												1
徒手整復	2						1						3
その他													0
合計	5	5	4	4	1	3	0	4	3	7	5	6	47

